

令和元年度(2019年度)

病害虫発生予察情報 第10号

注意報第5号

北海道病害虫防除所 令和元年(2019年)年7月19日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメが早発、多発！ 出穂期からの基幹防除および追加防除を適切に実施しよう！

アカヒゲホソミドリカスミカメは水稻の斑点米発生 の 主要因となる害虫で、7月中旬頃から水田畦畔や雑草地で発生した第2回成虫が、水稻の出穂に伴って水田に侵入し、籾を吸汁加害します。

予察灯による第2回成虫の初誘殺は、長沼町、比布町、北斗市いずれの地点においても平年より早く認められており、誘殺数は長沼町および比布町において7月3半旬に急増しました。

水田畦畔および秋まき小麦におけるすくい取りや、水田内に設置したフェロモントラップにおいても平年を上回る捕獲が認められています。

水稻の生育は平年よりも早まっており、出穂期も早まると推測されます。カメムシの密度は既に高まっており、本種に対する基幹防除実施時期が早まると予想され、追加防除も必要となる可能性があります。

なお、7月18日付け札幌管区気象台の1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予報されており、本種の加害と増殖に好適な条件となると考えられます。水稻の生育と本種の発生動向に注意し、防除適期を失しないようにしましょう。

1. 発生地域 全道

2. 発生期 早

3. 予想される発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯による第2回成虫の初誘殺は、長沼町、比布町、北斗市いずれの地点においても6月4半旬から7月1半旬と平年よりも早かった。誘殺頭数は、長沼町および比布町において7月3半旬に急増した(表1、2)。
- (2) 秋まき小麦のすくい取りでは、長沼町および比布町において平年を上回る幼虫の捕獲が認められている(表3)。
- (3) 予察田内に設置したフェロモントラップでは、7月以降比布町および北斗市において平年を上回る捕獲が認められている(表4)。
- (4) 7月18日付け札幌管区気象台の1か月予報(付記)によると、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。
- (5) 7月15日時点の水稻の生育状況は、全道で平年よりも4日程度早まっている。このため、出穂期が早まると推測される。

5. 防除対策

- (1) 薬剤散布は出穂期とその7日後の2回を基幹防除として必ず実施する。ただし、ジノテフラン液剤またはエチプロール水和剤F、スルホキサフロル水和剤Fを使用する場合、基幹防除を出穂期7～10日後の1回散布に省略できる。
- (2) 基幹防除として水面施用剤を使用する場合は、出穂期から7日後の1回施用で出穂後2週目まで残効が認められる。
- (3) 基幹防除に引き続き、以下のとおり発生モニタリングを行い、追加防除の要否を判断する。
 - ① 基幹防除に茎葉散布を実施した場合には、2回目散布（1回散布の場合は1回目）の5～7日後に水田内のすくい取りを行う。20回振りあたりの捕獲頭数が「きたくりん」、「吟風」では3頭、「きらら397」では2頭、「ななつぼし」、「ほしのゆめ」では1頭に達した場合に追加防除を実施する。その後も、上記水準を下回るまで順次7～10日間隔で同様の調査とその結果に基づいた追加防除を継続する。
 - ② 基幹防除に水面施用剤を使用した場合は、出穂3週目にすくい取り調査を実施し、上記に準じて追加防除を実施する。
- (4) 加害期間は水稻の黄熟期までであり、その後の防除は不要である。

表1 予察灯によるアカヒゲホソドリカスミカメ第2回成虫初誘殺日

長沼		比布		北斗	
本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月3日	7月7日	6月23日	7月13日	6月20日	7月12日

表2 予察灯によるアカヒゲホソドリカスミカメ誘殺頭数

月・半旬	長沼		比布		北斗	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	3	1.3	2	2.2	9	0
2半旬	10	1.2	0	1.2	2	0.2
3半旬	18	5.7	0	1.6	0	0
4半旬	1	10.3	0	2.0	1	3.0
5半旬	13	9.3	2	1.9	1	7.0
6半旬	1	21.7	1	2.8	5	15.2
7月1半旬	7	10.2	1	2.3	10	8.4
2半旬	4	29.3	5	1.3	3	9.3
3半旬	507	119.2	24	3.2	17	21.3
4半旬		215.1		6.5		76.2
5半旬		372.9		13.1		76.3
6半旬		736.0		57.1		92.5

表3 アカヒゲホソミドリカスミカメ幼虫の秋まき小麦畑におけるすくい取り頭数

月・半旬	すくい取り数(20回振り×5日分換算値)			
	長沼		比布	
	幼虫		幼虫	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0	0	0
2半旬	15	0.3	5	0.2
3半旬	3.3	0	5	1.4
4半旬	0	0.1	0	1.5
5半旬	0	0	0	1.5
6半旬	30	4.8	660	0
7月1半旬	52.5	28.5	1345	7.8
2半旬	80	67.8	465	35.5
3半旬	20	55.7	190	35.6
4半旬		52.2		19.6
5半旬		14.0		13.6
6半旬		0		0

表4 アカヒゲホソミドリカスミカメ雄成4水田フェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	長沼		比布		北斗	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0.5	0	-	0.2	0	0
2半旬	0	0.5	-	0	0	0.3
3半旬	0.2	0.6	0	0.1	0	0.4
4半旬	0.3	1.2	0	2.2	1	5.6
5半旬	0	1.9	1	1.3	9	3.6
6半旬	0	2.0	0	2.0	3	5.6
7月1半旬	0	1.2	1	1.1	6	4.5
2半旬	0	1.1	10	0.4	8	3.0
3半旬	0.5	2.7	11	1.2	12	2.5
4半旬		0.9		0.5		0.5
5半旬		0.9		0.8		1.8
6半旬		4.1		0.5		2.5

注) -:フェロモントラップ未設置

付記

北海道地方 1か月予報
(7月20日から8月19日までの天候見通し)

令和元年7月18日
札幌管区气象台発表

<予想される向こう1か月の気候>

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、北海道日本海側で高い確率60%、北海道オホーツク海側・太平洋側で高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 北海道地方	20	30	50
【降水量】 北海道地方	30	30	40
【日照時間】 北海道地方日本海側	30	40	30
【日照時間】 北海道地方オホーツク海側	30	40	30
【日照時間】 北海道地方太平洋側	40	30	30

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 北海道地方日本海側	10	30	60
1週目 北海道地方オホーツク海側	20	30	50
1週目 北海道地方太平洋側	20	30	50
2週目 北海道地方	20	40	40
3~4週目 北海道地方	30	30	40

■低い □平年並 ■高い